

松尾

松尾の集落は、足摺岬の西側の印象的な場所にあります。風化や浸食を経て形作られた、花こう岩の険しい崖の頂から、海を見下ろすことができます。松尾では家々が互いに寄り添うように建てられており、細い通り道のみによって隔てられているのが特徴的です。江戸時代（1603～1868 年）に紀州（現在の和歌山県）の漁師たちが海で魚を捕る方法や、日本料理に欠かせない素材であるカツオ節の作り方を地元住民に教え、集落は栄えました。松尾の人々は海商にも携わり、海運会社を設立して成功した人たちもいます。その一例が吉福家であり、明治時代（1868～1912 年）の贅を尽くした邸宅が集落の最盛期を思い起こさせます。松尾のもう一つの見どころは、アコウ（*Ficus superba* var. *japonica*）の大樹です。地元の神社境内の奥にあり、樹齢は 300 年を超えます。